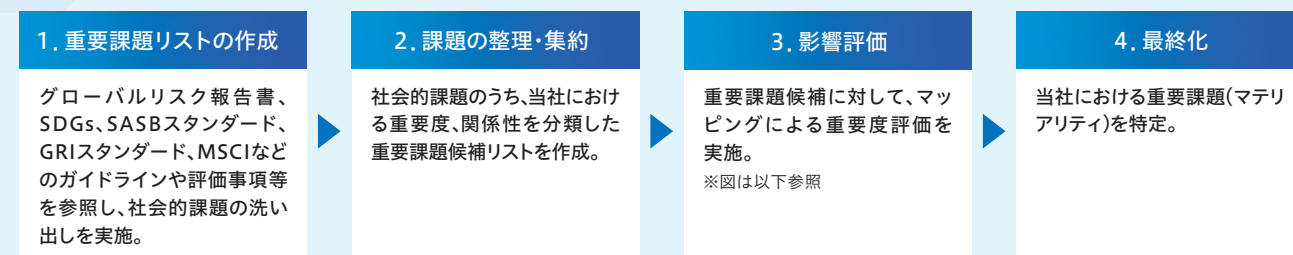


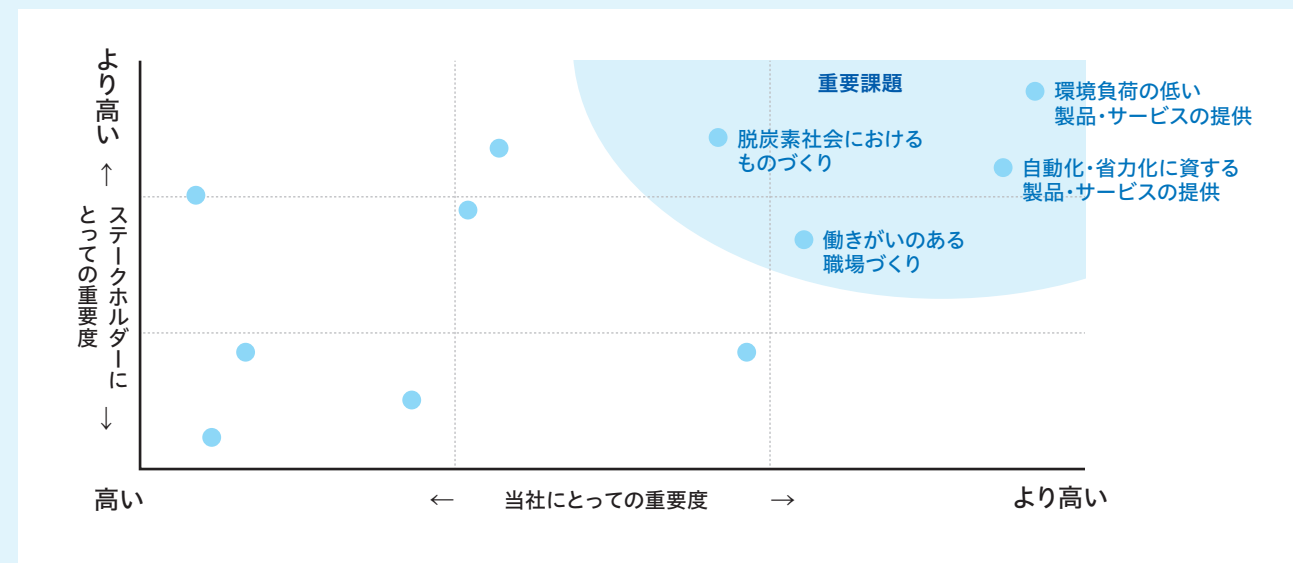
重要なサステナビリティ課題(マテリアリティ)

日本車両では、取締役会において、当社のサステナビリティについての取り組みの基本方針を策定しています。また当社の重要なサステナビリティ課題に対する取り組みの推進主体として、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、長期的な視点で、当社にとって重要なサステナビリティ課題(重要課題＝マテリアリティ)を特定しています。特定したマテリアリティに対する取り組みを推進することで、持続的な企業価値の向上に資するとともに社会課題の解決に努めています。

マテリアリティ特定プロセス



マッピングによる重要度評価



重要課題

1. 環境負荷の低い製品・サービスの提供
2. 自動化・省力化に資する製品・サービスの提供
3. 脱炭素社会におけるものづくり
4. 働きがいのある職場づくり

事業概況

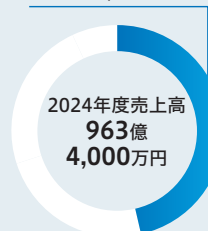
鉄道車両事業

事業ハイライト

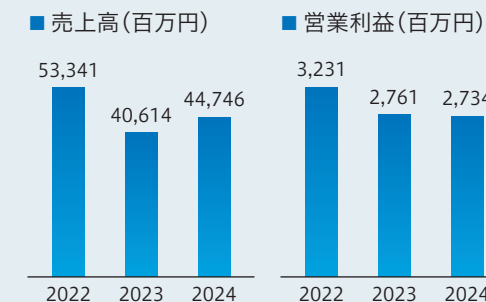
J R東海向けおよびJ R西日本向けN700S新幹線電車やJ R東海向け315系電車の他、東京都交通局向け電車、名古屋鉄道向け電車などの売上があり、公営・民営鉄道向け車両の売上が前連結会計年度に比して増加したことなどにより、鉄道車両事業の売上高は44,746百万円と前連結会計年度比10.2%増加となりました。

売上高構成比

売上高構成比**46.4%**
447億**4,600**万円



過去3か年の売上高・営業利益



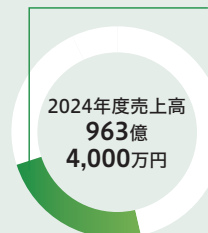
建設機械事業

事業ハイライト

大型杭打機、小型杭打機、全回転チューピング装置などの売上があり、国内向けの大型杭打機や部品等の売上が前連結会計年度に比して増加したことなどにより、建設機械事業の売上高は22,809百万円と前連結会計年度比7.6%増加となりました。

売上高構成比

売上高構成比**23.7%**
228億**900**万円



過去3か年の売上高・営業利益



輸送用機器・鉄構事業

事業ハイライト

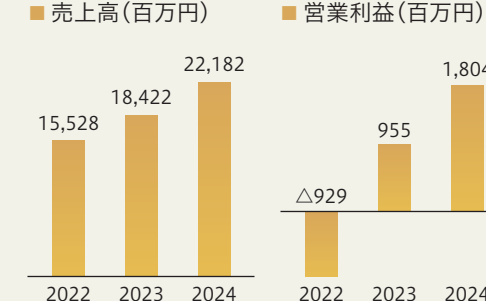
輸送用機器におきましては、民生用バルクローリ、大型自走式キャリヤなどの売上があり、LNGタンクトレーラの売上が前連結会計年度に比して増加しました。鉄構におきましては、圏央道飯沼川高架橋、佐世保道路須崎橋などの売上があり、道路橋の売上が前連結会計年度に比して増加しました。以上の結果、輸送用機器・鉄構事業の売上高は22,182百万円と前連結会計年度比20.4%増加となりました。

売上高構成比

売上高構成比**23.0%**
221億**8,200**万円



過去3か年の売上高・営業利益



エンジニアリング事業

事業ハイライト

鉄道事業者向け機械設備の他、各地のJ A向け営農プラント、家庭紙メーカー向け製造設備などの売上がありましたが、鉄道事業者向け機械設備の売上が前連結会計年度に比して減少したことなどにより、エンジニアリング事業の売上高は6,548百万円と前連結会計年度比15.5%減少となりました。

売上高構成比

売上高構成比**6.8%**
65億**4,800**万円



過去3か年の売上高・営業利益

